

あなたの「まなび」をナビゲート！ enjoy lifelong learning

ma·navi

鳥取県生涯学習情報誌

生涯学習とっとり
vol.
198
2022.1
学びから行動へ、行動から学びへの循環



国府川から橋津まで米を搬送する情景を表現

特集

仲間と一緒に、 やしろ 社の芸能を未来へ

民俗芸能伝承保存会 やしろおもしろい会

- 04 私たちの活動をご紹介します！
古文書を読む会(伯耆町)
- 05 とっとり県民カレッジ連携講座情報
(1・2月)
- 19 社会教育・生涯学習担当者紹介(日野町)
- 20 とっとり県民カレッジ講座を開催しました
- 21 鳥取県立生涯学習センター(お知らせ)
- 23 みてみて♪こんなしとるで～



「やしろの田植え唄」、舞台後のようす。メイクもおもしろおかしく自分たちで。

社地区ってどんなところ？
 倉吉市社地区は、令和の出典となった万葉集「梅花宴」とも縁の深い、歌人「山上憶良」が赴任した国庁がある歴史の郷。また、窯元が多く存在する陶芸のまちです。

仲間と一緒に、社の芸能を未来へ

～民俗芸能伝承保存会 やしろおもしろい会～

昔から伝わる郷土芸能を子どものころの記憶と資料を基に発掘し、その保存と伝承に取り組む「民俗芸能伝承保存会 やしろおもしろい会」。活動について、会長の池本宏之さんいけもとひろゆきと副会長の長田司さんながたつかさにお話を伺いました。

社に残る芸能を発掘！

歴史と陶芸のまち倉吉市社地区。この地で平成8年に発足し、地域の仲間とともに、25年もの長い間活動を続ける「民俗芸能伝承保存会 やしろおもしろい会」（以下、「おもしろい会」という）。

会を設立したのは、社で古くから親しまれてきた郷土芸能が、時代とともに廃れていくのを危惧した池本さんが、当時、公民館長だった長田さんに相談したことがきっかけです。

「これじゃあいけん！社に残る郷土芸能を発掘して、いろいろな方に見てもらおう活動ができないか」と、池本さんが話を持ち掛けたところ、「私も同じように思っていた」と長田さんも意気投合。知り合いで興味がありそうな人に声を掛け、仲間を募ることから始めました。しかし、昔から伝わる郷土芸能といっても、資料としてはほとんど残っていませんでした。そこで、少ない資料を集め、子どもの頃に見聞きし記憶に残っていることをたどり、社に残る芸能を1つずつ拾い集めてきました。

道具も衣装も手づくり。だから、愛着がわく

「舞台道具は全て手づくり。メンバーには大工もいるし、いろいろと技を持った人がいて、芸達者な人ばかり」と話す池本さん。「当座の石」で登場する大きな石は、舞台上で見栄えがするように発砲スチロールで作りました。「みつぼし踊りの浴衣やはんてん、編み笠なんかもみんな手づくり。だから、愛着がわくし、大事に使う。それから、自宅にあった古い紋付袴を引っ張りだしてきて利用し、神主さんの衣装はもらいもの」と、にっこり。



社コミュニティセンターに理解を得て倉庫を置き、道具を保管

倉庫の中には、舞台で使う道具を保管しています。道具も衣装もみんな手づくり。農家の人も多く、舞台で使う「籠かご」や「鍬くわ」は、自宅から持ち寄ったもの。

※昔は、どの地区にも青年団があって、通称「青年団芝居」と呼ばれていたそう。おもしろい会の皆さんは、もともと青年団で芝居をしていたので、演じることに興味がある人ばかり。

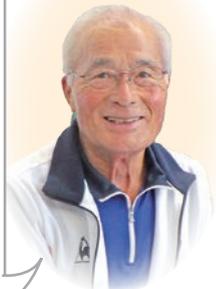
演目の台本は長田さんが作ります。「おもしろい会で、こうしたらもっとおもしろくなるじゃないか?って、考えること自体が楽しい」と話す長田さん。演目は、昔から伝わるものをそのまま演じるのではなく、観客におもしろいと喜んでもらえるような情景にアレンジしています。



会長の池本宏之さん

「国府川米積み唄」は、小学校の運動会で踊っていたので、唄は聞いたことがあって、でも、ピアノ演奏で…。これでは郷土芸能にならないって思ってた。そこで、太鼓と生唄で披露するようになったんです。踊りはみんな知っていたし、唄は年配の人が唄ったものがカセットテープに録音されて残っていたので。

「当座の石」は、父が昭和24年に家を建てた時に、地締めをしたんですよ。私は高校生だったので、その様子を覚えていて、「みつばし踊り」や「田植え唄」は、盆踊りで踊ったし、田植え唄は、田植えの時に唄いました。それから、「大黒舞」は、父が荒神神楽をするのを、高校生の時から手伝っていたので、私も舞うことができて。



副会長の長田司さん

子どもたちに伝える活動も

地元の敬老会や公民館まつりに呼ばれると、年配の人は、「そうそう、そうだった!」と昔のことを思い出して懐かしみ、とても喜ばれます。時には県外に呼ばれて、社の芸能を披露することも。また、平成14年に国民文化祭が鳥取で開催された際には、タイの人が社を訪れ、おもしろい会が「みつばし踊り」を披露。その後、おもしろい会もタイを訪れ、踊りで交流を深めました。

おもしろい会は、社の郷土芸能について伝承活動を続けることはもちろんですが、倉吉全体の郷土芸能である「みつばし踊り」を、子どもたちに伝える取組にも力を入れています。これまで、社小学校や河北小学校、久米中学校にも呼ばれ、子どもたちと交流を深めてきました。成徳小学校には、10年以上も続けて「みつばし踊り」の太鼓と踊りを指導しています。「子どもたちがどう受け取っているかはわかりませんが、『みつばし踊り』は、倉吉の郷土芸能。だから、倉吉全体として伝えていかなければいけない」と、池本さん。

おもしろい会の演目について

演目には、「みつばし踊りとなげだし」「国府川米積み出し唄」「やしろの牛追いかけ節」「当座の石(地締め唄)」「やしろ田植え唄(田の神の舞)」「大黒舞」「なごや(花嫁道中)」があり、いずれも観客を楽しませる工夫がされています。

みつばし踊りとなげだし

時宗の開祖一遍上人の念仏踊りが始まり。従軍僧により、この地にも伝えられた。「なげだし」は、「みつばし踊り」の合間に踊られるテンポの速い踊り。

国府川米積み出し唄

国府川から米を積んで、鳥取藩の倉庫があった橋津まで搬送していく情景を表現。

やしろの牛追いかけ節

牛の売買で、博労と牛の飼育者、買い手が値段交渉をする様子をおもしろおかしく表現。

当座の石(地締め唄)

家を建てる際に、土台となる石を置くために地面を固く締める「地締め」の様子を表現。

やしろ田植え唄(田の神の舞)

田の神は、豊作を祈願して舞う神楽等に出てくるめでたい神。

大黒舞

大黒さんの衣装を着て、大黒舞をする演目。

なごや(花嫁道中)

昔、結婚式で唄われていた長持唄。この地独特の唄い方がある。



やしろの牛追いかけ節



なごや(花嫁道中)



当座の石(地締め唄)

披露することが、みんなの目標になる

芸能の保存伝承を続けて、25年。こんなにも長く活動が続けられたのは、「おもしろい会のみんなの気持ちの一つになっているから」と池本さん。しかし、この2年間は、コロナで地元の敬老会も文化祭も夏祭りもすべて中止。「コロナ前は、地域の行事に声がかかり、披露する場があったけれど、今は全くないのが辛い。集まることさえできない」と嘆く長田さん。そんな中、11月にやっと集まることができ、これからのことについて話し合ったそうです。

「早くコロナが収まって、また前のように地域の行事やイベントに呼ばれるようになったら、一番

うれしい。披露することが、みんなの目標になるので」と、池本さん。

悩みは、後継者がいないこと。「地域の若い人が仲間に入ってくれるとうれしいのですが。この活動もいつまで続けられるか…」と、率直に話してくださいました。

これからの目標は、ビデオに録画した舞台をDVDに焼き直すことと、郷土芸能の演目や歴史を冊子にまとめること。これからも、仲間と一緒に社の郷土芸能を守り伝えていきたいと笑顔で話します。

おもしろい会が指導する

成徳小学校からのメッセージ

(寄稿) 倉吉市立成徳小学校 校長 堀 良一 さん



この2年間は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施できていませんが、成徳小学校は、「成徳キッズみつぼし隊」として、打吹祭りや土曜夜市で踊りを披露してきました。

令和元年7月13日に、やしとおもしろい会の池本さん他十数名の方、成徳地区文化部の方、PTA・地域の有志の方、合わせて25名ほどの方に来校いただき、全校児童が「みつぼし踊り」の指導をしていただきました。皆さんのご指導のおかげで、毎年練習している2年生以上はもちろん、初めて習う1年生もすぐに上手に踊ることができるようになりました。また、池本さんには本番に向けて太鼓を叩く児童の指導にもご協力いただきました。令和元年7月27日の土曜夜市、令和元年8月3日の打吹祭りには、練習の成果を発揮して黄色いTシャツを着た子どもたちが踊りを披露しました。本当に、ありがとうございました。



田の神様

社コミュニティセンターからも一言

伝統の民俗芸能を、伝承を絶やすことなく、これからもたくさんの方々を知っていただきたいです。これからの「やしとおもしろい会」の方々のますますのご活躍を応援しています♪

連絡先

民俗芸能伝承保存会
やしとおもしろい会

倉吉市社コミュニティセンター
〒682-0943 倉吉市国分寺74-1 電話：0858-28-2155
【池本さん連絡先】 0858-28-0968

私たちの活動を紹介します

伯耆町

古文書を読む会

<寄稿>世話人：妹尾 千秋さん

<連絡先> 0859-68-3154

<設立年>昭和53年8月

<活動目的>

会員が等しく崩し字（古文書）を読めるようになることを目的としています。

<月例会>毎月第2土曜日 午前10時～12時



文化財現地調査の様子

活動を始めて、43年

昭和53年に伯耆町立溝口公民館（旧溝口町）の「古文書講座」として発足してから、毎月1回の例会を休まず続けてきました。その記録を辿ると、今年の10月で489回となります。43年もの長い間、なぜ続けてこられたのか不思議ですが、「良き指導者に恵まれたから」の一言に尽きると思います。

初代講師の安達氏は、昭和41年に米子市立図書館に開設された「古文書の会」の講師陣の一人で、新聞にも「古文書雑考」の連載を持たれ、県西部の古文書研究の第一人者であったと言っても過言ではありません。また、4代目講師となる現在の羽田成夫氏も、鳥取県立博物館で古文書ボランティアを務めるなど、県内各地で活躍しており、古文書研究に思いのある方が代々講師を務めています。

毎月一回の例会は次のような流れで進めています

①事前学習

事前に配布されたテキスト（古文書）を、崩し字用例辞典などを使用して解説します。

②例会当日

前回の例会で学んだことを復習します。その後、テキストの斉読みを行い、講師から難読・難解な語句についての解説があります。質疑応答の後、再度斉読みを行います。解説終了後、テキストの歴史的背景等について深掘りを行います。最後に解説文と次回のテキストが渡されます。

不思議なことに、長く続けていると、ミミズのような字が文字に見えてきます。「石の上にも三年」続けることが肝要なようです。

「伯耆地域近代化遺産発掘プロジェクト」への参加

このプロジェクトは「研究者が一方向的に古文書の価値付けをするのではなく、地元の人が語る故郷の記憶とセットで残したい」という島根大学法文学部板垣貴志准教授の強い思いから始められたもので、矢田貝家住宅（伯耆町上細見）に保存されている幕末から昭和初期の歴史資料を、准教授と学生、私たち地元住民が一緒になって読み解いています。地域における歴史資料の調査研究のモデルケースとして、私たちも学ばせていただいています。

文化財の現地調査にも携わっています！

コロナ禍で中断していましたが、文化財の現地調査も再開し、私たちも携わっています。大山寺の里坊屋敷跡（丸山）を調査した際には、明治初期、先祖が戸長をしていた旧家から廃仏毀釈に関係する未公開の古文書の提供がありました。新しい歴史的発見が期待されており、解説が楽しみです。

地域の文化活動に果たしてきた役割

この講座をとおして、地元の旧家や集落、社寺等に伝わる古文書の写しを解説文付きで残せたことは、文化財保護の立場からも意義あることだと思います。

また、平成に入ってから刊行された集落誌や郷土誌、神社誌や歴史調査研究誌等が、溝口地区は12冊と他地域より多く、さらに著者が全て地元の方でした。これは、旧溝口町で40年近く続けてきた古文書を読む会の活動により、多くの人材が育てられたことの証明とも言えます。これからもこの活動を次の世代に引き継いでいきたいと思っています。